

激闘のセンバツを終えて 選手コメント紹介③

赤鬼の春Ⅱ 65

板倉祐安君

板倉祐安君(2-6)は今回の甲子園出場について「自分たちの実力が全国にも通用するということを確認できた。また多くの方々に応援していただいて、自分たちは支えられていると感じた。個人としては甲子園練習を新3年生みんなで行うことができてうれしかった」と述べた。慶応戦を「予想していた通り投手戦となり、ロースコアでの接戦となった。緊張していたが自分たちの実力を発揮して勝つことができたのでよかった」と、花巻東戦を「増居が好投していたので、球場一体が増居のプレーや東高の野球を応援をしてくれているよううれしかった」と振り返った。「夏は選手として甲子園に出場したいという思いがより一層強くなった」と話す板倉君。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

松永恭典君

松永恭典君(2-7)は今回の甲子園を振り返って「多くの方々が応援してくださいているのを見て、自分たちのチームはたくさんの人に支えられているのだと実感した。目標の二勝を超えることはできなかったのですが、夏にまた甲子園に戻ってきて二勝以上を達成したい」と笑顔を見せた。松永君の印象に残った場面は高内君がホームランを打った

今後に向けて「甲子園で選手が頑張っている姿を見ることができたし、甲子園での一勝もできたのでうれしかった。それと裏腹に、選手としてプレーできなかった悔しさもあつた。怪我也直したので次こそはベンチ入りできるように頑張りたい」と意気込んだ。

伊吹潤也君

「甲子園では球場補助員を務めていて、舞台裏に行くことが多かった。より深い体験ができてよかった」と今回の甲子園を振り返った伊吹潤也君(2-8)。慶応戦を「相手の応援がかっこよかったことが印象に残っている。相手の応援に圧倒されないように頑張つて声を出そうとした」と、花巻東戦を「増居が良いピッチングをしていたと思う。打撃面はもっと打線をつないで一点取ってほしかった」と振り返った。伊吹君は「応援は全体を通して迫力があり、東高が甲子園で試合をする上で赤いアルプスは必要不可欠なものだと思った」と話した。また今後に向けて「個人としてはベンチ入りを目指し、試合で良い結果を出したい。チームとしては春大会で優勝を目指して春の近畿大会に出場し

ところだそう。甲子園に2回出場したことについて「2季連続で甲子園に出場できるのはすごいこと。この調子で次も甲子園に出場できるように、夏に向けて練習に取り組んでいきたい」と話した。

小山裕君

小山裕君(2-8)は今回のセンバツについて「心のどこかでは緊張を感じていたと思うが、いつも通り応援できていた」と感想を寄せた。また慶応戦を「最初からこのような試合展開になると予想できていた。そのなかで点数を取って勝ち切れた。チームにとっても自分にとっても良い経験になったと思う」と、花巻東戦を「増居が頑張つて9回まで失点0で抑えていたが、打線が応えられなかったのは完全に力不足だと感じた。夏までの課題になってくると思う」と振り返った。小山君の印象に残った場面は慶応戦の最後に三振で終えることができたところだそう。小山君は「夏春連続出場は今までなかったことなので、自分たちの代で達成できてうれしかった。もう一回夏に出られるよう調整していきたい」と意気込んだ。最後に「春、夏の地方大会の試合にすべて勝ち、再び夏の甲子園の舞台に立ちたい」と今後の目標を明かした。

たい。そして大阪桐蔭と対戦したい」と目標を掲げた。